鈴木 健司
Suzuki Kenji

真庭人
MANIWABITO

MITに入り、写真撮影を始めるまで

MITスタッフの中でも、特にこだわりの映像に定評のある鈴木健司さん。KHKを見て育ち、吹奏楽部員としてホールでも演奏した鈴木さんにとって、エスパスランドは身近な存在でした。大学進学を機に一度は故郷を離れましたが、エスパスの職員募集の話を聞き応募。晴れて採用となり、配属されたのがMITの報道制作課でした。

鈴木さんが写真撮影を始めたきっかけは、広報まにわの一部をMITで担当することになったこと。MITでも写真用カメラが導入され、鈴木さんは技術を磨こうと自身でもカメラを購入したそうです。ただ、特別撮りたいものが無く、せっかく買ったカメラはしまい込むことに。そんな鈴木さんに転機が訪れます。『いきもの大好き』という番組に関わることになったのです。

小さな尊い生き物との出会い

真庭の自然の中で見つけたいろいろな生き物を紹介する同番組。ある日の収録中、警戒心が強くあまり人前に現れないミソサザイという鳥に出会った鈴木さん。強く興味を引かれて熱心に調べるうち、小さな体ながら懸命に生きる姿に、生き物の尊さを実感したと言います。「子どもの頃から自然が好きだと思っていたんですが、それは、山とか緑とか、風景としての自然であって。さまざまな生き物が関わり合う自然の魅力に気付き始めたんです」と語ってくれました。撮りたいものができ、望遠レンズも購入した鈴木さん。この頃から撮影が断然面白くなってきたと話します。最近は動画撮影を中心に、真庭の自然をありのままに届けたいと、『四季折々』という番組にも力を入れているそうです。

生き物を尊び、撮影方法の探求にも貪欲な鈴木さんが切り取った一瞬一瞬の自然の美しさを、ぜひ見てみたいと思いました。

撮影中にも何度か野鳥に遭遇

愛用のカメラと超望遠レンズ

鈴木 健司さん（余野下）

真庭で生まれ育つ。MIT報道制作課勤務。中学以来、音楽、特にトランペットとは長い付き合い。しかし今は聴いて楽しむ方が多い。カメラと双眼鏡を携え、休日はバードウォッチングや山歩きに繰り出す日々。

まにわびと 35 2022